てはすでに多くの報告があるが今回報告せる症例は先天性胆道閉塞症の女児を対象として生後15日の先天性胆道形成不全の症例と比較しまた生後67日の先天性胆道拡張症例について供覧し比較した．

さらに生後7日の女児で黄疸を主訴とし来院肝シンチグラムで肝上方に大きな欠損をみとめ ^{99m}Tc-赤血球標識法（体内法）を施行しSPECT法により断層像を作製し有用なる所見を得た．下血を主訴として来院せる2歳の女児では出血部位検索を目的として ^{99m}Tc-赤血球標識法でRI集積部位の移動することより小腸血管腫を診断しえた．

5. 各種合併症の追跡に腎シンチが有用であった死体腎移植の一例

頴川　晋　池田　滋　石橋　晃
（北里大学病院・泌）

腎シンチグラムは，腎の動態機能検査法として優れており，腎移植後の腎機能の推移観察モニター上，特に有用なものである．今回われわれは，急性拒絶反応による腎摘出に至るまで約2か月間にわたり，計8回の腎シンチグラムを施行した死体腎移植の一例を経験し，腎シンチグラムの有用性を確認できたので，この間の合併症，特に急性尿細管壊死，腎後性狭窄による水腎症，急性拒絶反応などにつき，画像上の推移を中心に報告する．

6. 下肢動脈閉塞性疾患に伴う潰瘍性病変の予後に関する検討

倉本　憲明　大島　統男　東野英利子
石川　演美　秋貞　雅祥　（筑波大・放）
井島　宏　（同・循環器外）

虚血性潰瘍を伴う下肢動脈閉塞性疾患12例15病変について $^{99m}TcO_4^-$ RIアンギオグラフィーおよび ^{201}Tlシンチを行い，予後との関連を検討した．いずれも運動負荷または反応性充血時に行い，$^{99m}TcO_4^-$ RIアンギオグラフィーのTAC分析にてPeak Wash-in value (Pin) を求め，Pin<1.5の88%がamputationに至り，Pin≧3.0の75%は内科的治療で改善，治癒した．^{201}Tlシンチでは足底部および他趾との取り込み差により(−)から(卄)の4段階に分けたが，(−)のものは100%amputationに至り，(卄)のものの60%に内科的治療で改善・治癒をみた．

両者の併用により，境界領域の予後正診率向上も期待された．

7. (I-123)-Isopropyl-p-Iodoamphetamine (^{123}I-IMP) シンチグラムについて

百瀬　敏光　西川　潤一　町田喜久雄
土屋　一洋　町田　徹　伊藤　正光
桑島　良夫　飯尾　正宏　（東大・放）

^{123}I-IMPは脳のSPECT用放射性薬剤として米国のWinchellらによって開発された．この薬剤の特徴として①first passでのextraction効率が高く②washoutが遅く長時間脳内に保持される③分布は局所脳血流量を反映する④I-123の放出するγ線はエミッションCTに適する等が挙げられ，われわれに脳の生理学的画像を提供してくれる優れた薬剤として期待されている．現在，われわれは^{123}I-IMPによる脳シンチグラフィーを脳血管障害患者に施行しており，画質向上のためデータ採取時間，画像再構成法の問題について検討した．One step 30秒，Ramp filterを用いfiltered back projectionにより再構成し，さらに三次元フィルターでスムージングを行うことで画質の向上がみられた．この方法で数名の症例にIMPシンチグラムを施行したので報告する．

8. Hepatic Reticuloendothelial Failure を呈した2剖検例

大竹　英二　酒井　文彦　小野　慈
松井　謙吾　（横浜市大・放）
高橋　宏　（同・一内）
松川　俊義　（同・二内）
佐野　仁勇　青山　ちさ　（同・二病）

Hepatic reticuloendothelial failure（以下，hepatic RE failureと略す）は放射性コロイドによる肝scanで肝の描出が認められない局所的な網内系の機能不全状態で，比較的まれな病態である．最近，われわれはhepatic RE failureを呈した2剖検例を経験したので報告した．

症例1．38歳，女性．真性赤血球増加症に合併した肝臓のうっ血梗塞例で，^{99m}Tc-Snコロイドによる肝scanでhepatic RE failureを呈した．

Presented by Medical*Online